

東小の太陽光発電について



〔北校舎屋上にある太陽光パネル 〕



〔ふれあいロビーにある、発電量を示すパネルと
環境委員会が記録する発電量の表〕

東北大震災による福島第1原子力発電所の事故に伴い、自然エネルギーへの関心が高まっています。風力発電、地熱エネルギー等と共に太陽光発電にも注目が集まっています。昨年度の校舎の耐震化と改修工事とともなって、糸魚川東小学校の屋上に太陽光発電施設が設置されました。このことについて、もっと詳しく知らせて欲しいという地域の方からの要望がありましたので、今回特集することにしました。

糸東小以外に、市の施設で太陽光発電の設備をもっている主な施設は、「姫川コミュニティスポーツセンター」、「大和川地区公民館」、「青海生涯学習センター」等です。いずれも発電量10KWに対し、糸東小の設備は最高20KW発電することができます。

糸東小北校舎の屋上には、左上の写真のように、1枚で190W発電可能な太陽光発電パネルが、縦に3枚ずつ横に18列、2組南の空に向けて並べられています。全部で108枚のパネルが総て190W発電すると計算上は合計20.52KW発電することになります。学校の教室で使われている32Wの蛍光灯の642本分に当たります。実際は、天気の良い日で瞬間の発電力は、14～16KW位です。雨の日や冬の暗い日ですと0KWになってしまいます。

糸東小では、児童会の環境委員会の子どもたちが、午後1時頃の発電電力とこれまでの発電電力量を記録しています。左下の写真を撮影した、6月20日(月)の午後2時の発電電力は、11.1KW、昨年の12月からのこれまでの発電電力量は、11951KWです。発電された電力は、学校で使いますが余ると電力会社へ売っています。売電を始めた昨年の12月からの売電量は、平成22年

年12月から平成23年3月までの合計で、427KW 金額で10,248円です。

糸東小では、環境委員会の活動を通して児童の太陽光発電への関心を高めると共に、「ピークカット15%大作戦」に学校全体で取り組み、エネルギーの大切さについて考えさせていきます。